

本魂之所居也。

肝者木之精也。人怒則無不色青。目眩張者其效也。又云肝主仁。仁者不忍。

肝形左三葉、右四葉、凡七葉在右脇、右腎之前、並胃著脊之第九椎、其系上絡心肺、下亦無竅通春氣、爲陽中之少陽。

〔源平盛衰記六〕内大臣召兵事

馬ニ乗モノラザルモ、弓ヲ取モ取ラザルモ、出家遁世ノ古入道ニ至迄馳參ケレバ、洛中邊土ノ騷斜ナラズ、保元平治ノ逆亂ニ物懲シテ、貴賤上下肝ヲケス。

〔源平盛衰記九〕宰相申預丹波少將事

人ノ思歎ヲ休、物ノ所望ヲ叶サセ給ナバ、皇子御誕生有テ、家門ノ榮花モイヨク開ヌト相存ズ、誠ニ人ノ親トシテ子ノウレヘ歎ヲ見聞シ程ニ、身ニシミ肝ヲ焦ス事、何かハ是ニマサルベキ、

〔太平記二〕僧徒六波羅召捕事附爲明詠歌事

爲明卿ノ事ニ於テハ、先京都ニテ尋沙汰有テ、白狀有ラバ關東ヘ註進スベシトテ、檢斷ニ仰テ、已ニ嗷問ノ沙汰ニ及ントス、略中爲明卿是ヲ見給テ、硯ヤ有ト尋ラレケレバ、白狀ノ爲カトテ、硯ニ料紙ヲ取添テ奉リケレバ、白狀ニハアラデ一首ノ歌ヲゾ書レケル、

思ヒキヤ我敷島ノ道ナラデ浮世ノ事ヲ問ルベシトハ、常葉駿河守此歌ヲ見テ、感歎肝ニ銘ジケレバ、泪ヲ流シテ理ニ伏ス、東使兩人モ是ヲ讀テ諸共ニ袖ヲ浸シケレバ、爲明ハ水火ノ責ヲ遁レテ、答ナキ人ニ成ニケリ、

〔太平記十三〕兵部卿宮薨御事

淵邊シタ、カナル者ナリケレバ、略中宮宮護良少弼ラセ給フ體ニ見ヘケル處ヲ、御髮ヲ颯テ引擧テ、則御頸ヲ搔落ス、略中去程ニ御カイシヤクノ爲、御前ニ候ハレケル南ノ御方、此有様ヲ見